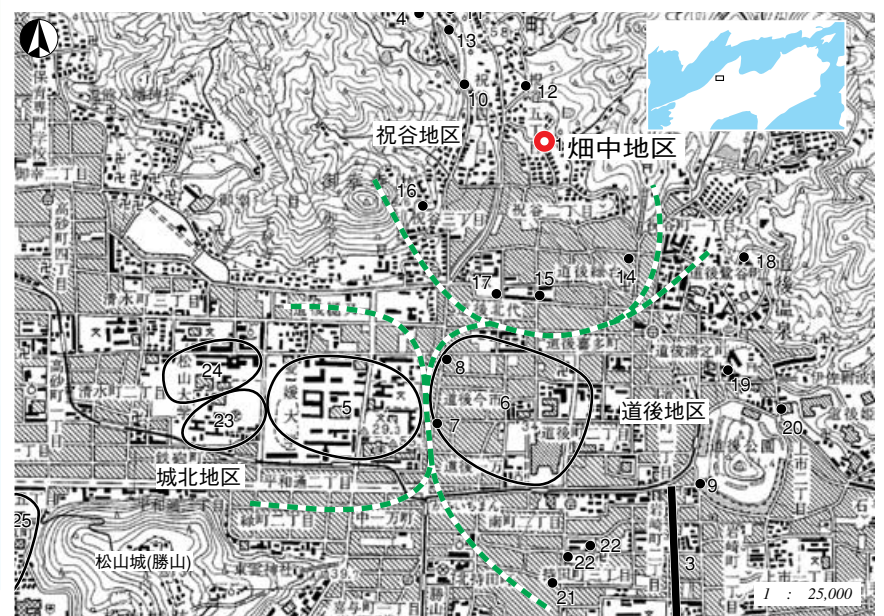


いわいだにいせきぐん はたけなかちく
祝谷遺跡群 畑中地区(仮称)

事業名 県道道後祝谷線埋蔵文化財調査
委託者 愛媛県(松山地方局)
受託者 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
遺跡名 祝谷遺跡群畑中地区(仮称)
場 所 愛媛県松山市祝谷2丁目

- 1 畑中地区 2 持田町3丁目 3 岩崎 4 祝谷六丁場 5 文京 6 道後今市 7 道後一万銅剣出土地 8 (伝)樋又銅剣出土地
- 9 道後湯月銅剣出土地 10 祝谷大地ヶ田 11 祝谷アイリ
- 12 祝谷本村 13 祝谷丸山 14 土居ノ段 15 土居窪 16 御幸寺東麓 17 道後北代 18 道後鷺谷 19 道後冠山 20 道後姫塚
- 21 持田 22 岩崎町 23 松山北高等学校 24 松山大学構内 25 若草町



竪穴住居から見つかった弥生土偶



前回の現地説明会(平成12年11月11日)では、弥生時代の大溝が見つかったことをお知らせしましたが、今回はこの大溝に囲まれた場所を調査しました。調査では大溝の西側から柱穴や土坑などがたくさん見つかっています。これらの遺構には、古墳時代や古代のものも含まれていますが、多くは弥生時代のもので、大溝は弥生時代の前期末から中期初頭(紀元前200年頃)に掘られて、中期の中頃(紀元前100年頃)までに埋め立てられたことがわかっていますが、今回見つかった遺構は大溝が埋められた時期のものが多いようです。

こうしたなかで、大溝にほど近い場所から**竪穴住居(SI01)**が見つかりました。竪穴住居は上から見ると、直径8.5mほどの円い形をしています。住居の内側では柱穴などのほかに、食料や道具を収納しておく貯蔵穴などが見つかっています。貯蔵穴(SK05)の底には石器作りの材料となる黒曜石(大分県姫島産)やその破片などが置かれていました。また、この住居の壁際からは**土偶**が発見されました。

土偶は内部が空洞で、大きさは「高さ7cm、幅5.5cm」で、首からは割れて残っていません。顔は上を向き、首にネックレス、耳にはピアスをしています。髪の毛は描かれていませんが、目は切れ長で鼻が高く、繊細な顎とおちょぼ口...と上品な顔立ちをしています。頬やまぶたのふくらみ、鼻の孔やわずかに驚鼻になるなど、とてもリアルに作られています。性別は断定できませんが、入れ墨(黥面)をしていないこと、額の丸みや繊細な顔立ちなどから女性ではないかと考えられます。

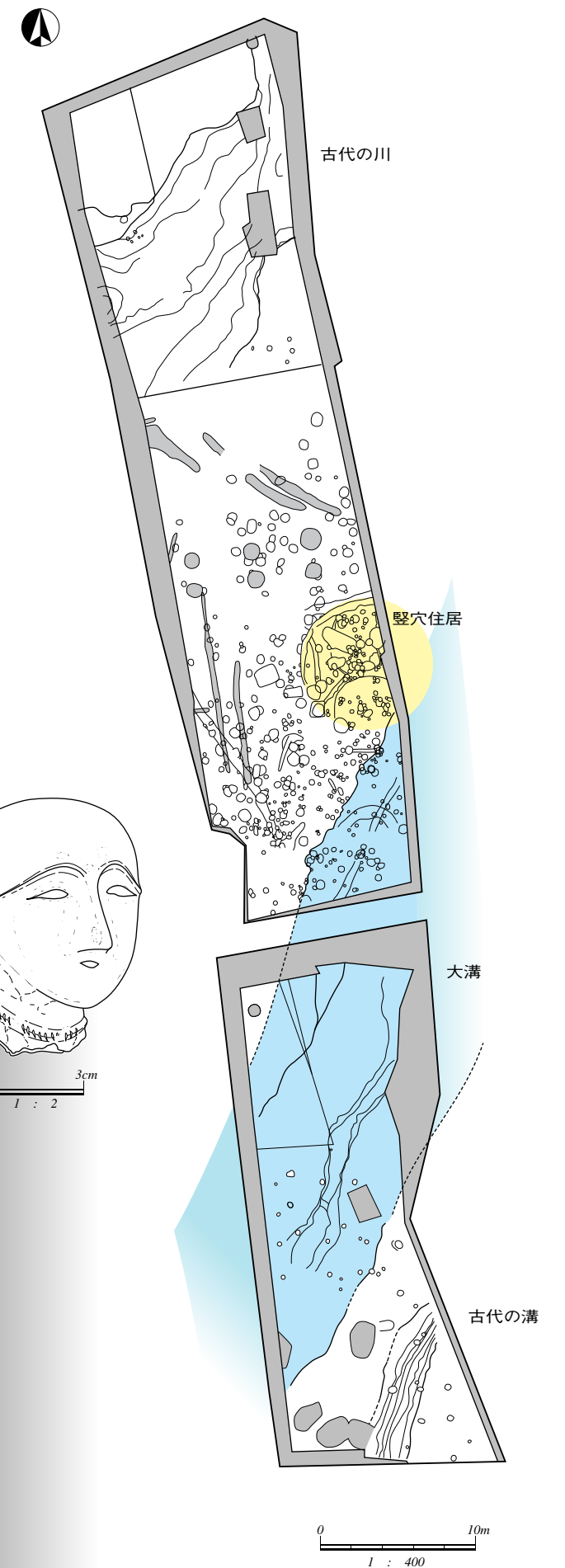
弥生人の顔は、人面付土器や青銅器などにも描かれていますが、土偶は全国で10例ほどが知られているに過ぎません。祝谷の土偶はそれらと比べても、特別立体的で写實的に作られていて、製作技術の高さがうかがわれます。この土偶がどういうふうに使われたかはわかりませんが、何かのまつりごとに使われたものと考えられます。また、この時期には、祝谷周辺では畑中地区以外でも分銅形土製品がたくさん出土しています。分銅形土製品は仮面に付けて魔よけのまじないに使われたとも言われていますが、実際のところはよくわかりません。

今回見つかった土偶や分銅形土製品は、弥生人の精神生活の謎に迫る貴重な資料になるものと期待できます。

北東から見た調査区

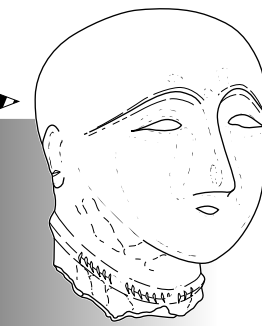
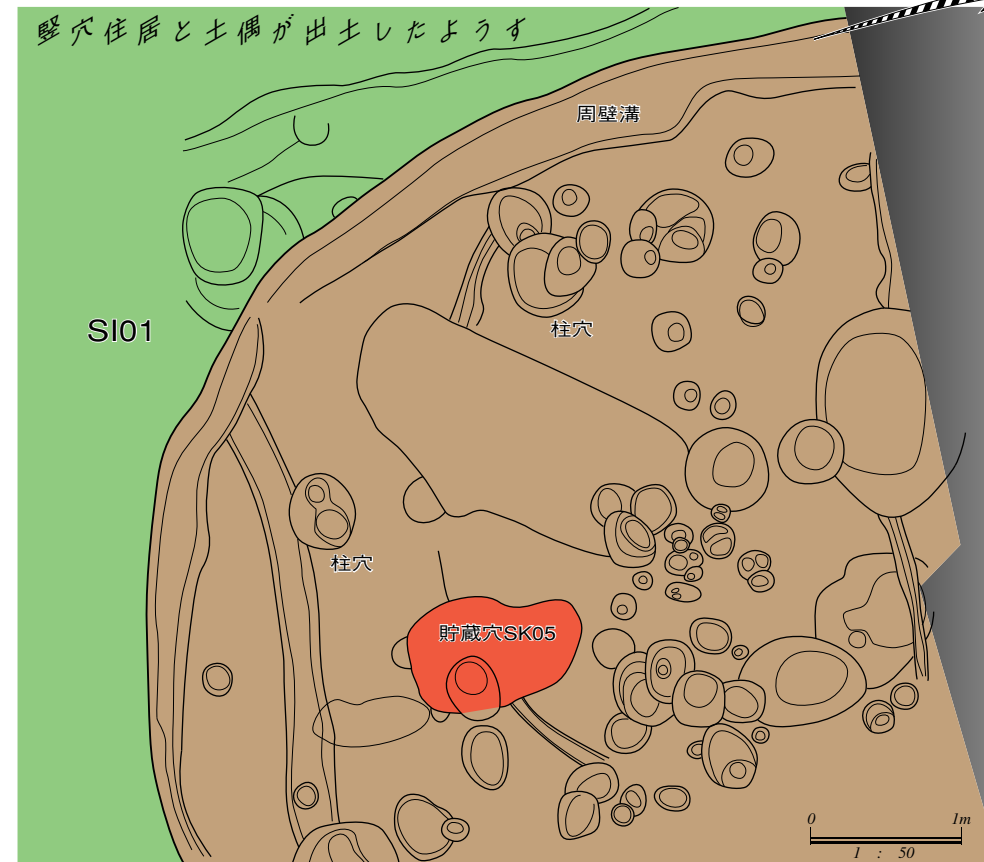


全体の遺構のようす



まどんな
弥生の土偶は"松山美人"!?

竪穴住居と土偶が出土したようす



調査区外

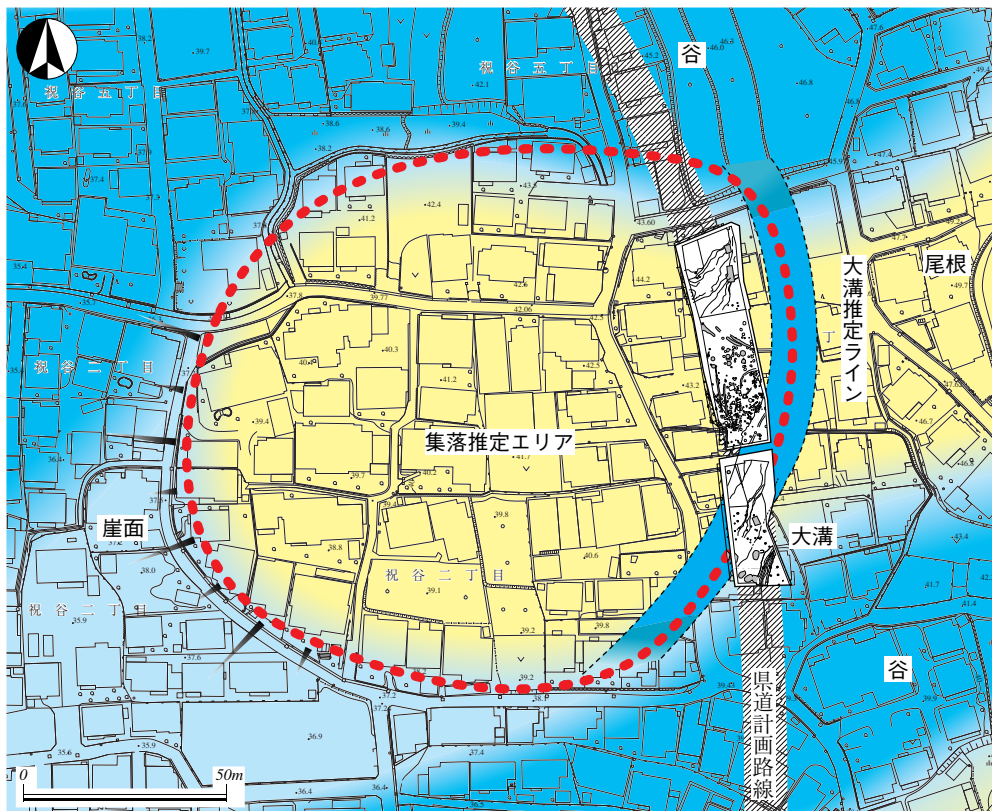


大溝とその断面

北側から見た大溝



祝谷遺跡群畑中地区の集落の広がり



Memo